

「頑張ったね」

去年の十一月末の事

あなたを植えた江坂先生と

あなたを見つめていた

『バナナって木じゃないよね』

『植物なんだって』

『だから木みたいに』

根ははってないって』

『冬が来るけど耐えられるかな』

『無理だから避難するか』

ここにビニルハウスかな』

『鉄腕ダッシュみたいになっってきたね』

『ハウスは無理だから』

技術室に避難しようかな』

大きな鉢に何株かに分けて

技術室に避難

窓際に置いて少しでも

あたたかい状況にしたけど

小さな株は枯れてしまい

最初に植えた1本だけが

今年の春を迎えることができた

春を迎えることができたあなたを
あなたが育った場所に移植
去年より少しずつ大きくなった
葉っぱも大きくなって

『今年の実がなるかな』

『無理でしょ』

『難しいと思うよ。』

バナナがなるのは』

九月の台風で大きかった葉は

ぼろぼろに見る影もない

でもあなたは生きること真剣

新しい葉を大きく広げた

そんな九月末に君は

花を咲かせた

『すごい。はじめて見た』と

めずらしさに集まった生徒

台風二十一号は十月末の

大きな台風

強い風強い雨

心配になってあなたを見に行くと

台風一過の青い空に

緑の葉っぱを広げていた

『頑張ったね。よく辛抱したね』

と声をかけると驚いた

あなたはバナナの実を結んでいた

